

# 株主の皆様へ

## 第89期 報告書

2013年4月1日  2014年3月31日

トップインタビュー

新組織体制の下、  
持続的成長への取り組みを加速



代表取締役社長 **仙田 眞雄**

Q1. 第89期（2013年度）の業績の概況について  
お聞かせください。

緩やかな景気の回復を受け、カセロネス銅鉱山の減損による影響を除けば、全体としては、期初の計画を上回り、増収増益となりました。

当社を取り巻く事業環境から申しあげますと、米国経済および緩やかではあるものの欧州経済についても回復基調が見られ、また、非鉄金属価格も概ね安定して推移しました。一方、国内経済についても「アベノミクス」による円高は正・株価持ち直しや消費税率引き上げ前の駆け込み需要等の影響により緩やかな回復基調にありました。

こうした事業環境の中で、三井金属グループの2013年度の売上高は前期比5・7%増加の4410億円、営業利益は前期比55・5%増加の257億円となりましたが、一方で、4月に対外

### 連結業績ハイライト

売上高 4410億円    営業利益 257億円    経常利益 136億円    当期純利益 36億円

contents	→ トップインタビュー ..... 1	→ 第89期レビュー データ編 ..... 6
	CLOSE UP → 様々な電子機器に使用される薄膜ターゲット材 ... 5	→ 第89期レビュー ニュース編 ..... 7

発表しましたとおり銅価格の下落等を受けて、パンパシフィック・カッパー株式会社（当社34%出資）が開発を進めているチリのカセロネス銅鉱山の減損処理<sup>①</sup>を行った影響等により経常利益は前期比15・7%減少の136億円、当期純利益は前期比63・0%減少の36億円となりました。

## Q2. 第89期は3カ年の中期経営計画（13中計）の初年度でしたが、進捗と今後の展望をお聞かせください。

現在、メリハリある「攻め」と「守り」による持続的成長という13中計のテーマの下、積極的な成長投資による「攻め」を展開中です。

この13中計では、メリハリある「攻め」と「守り」による持続的成長をテーマに、各事業の戦略を遂行しています。まずは「攻め」と「守り」の両面からご説明させていただきます。

13中計初年度の進捗について、「攻め」の展開から振り返ると、排ガス浄化触媒事業における海外拠点の設置、金属・資源事業における鉱山投資とリサイクル製錬へのシフトの推進、自動車部品事業のアジア生産シフトおよびメキシコ工場稼働などに注力してきました。

「守り」の要素では、銅箔事業における一部高機能品の海外への生産移管による採算性の

取り扱い金属品種の拡大に向けて動き出しています。

銅箔事業では、主力のキャリア付極薄銅箔（Micro Thin<sup>TM</sup>／マイクロシン）は、上尾事業所（埼玉県上尾市）で、2014年3月に生産増強工事を完了し、スマートフォンやタブレット端末の需要拡大に対応できる体制が整いました。一方、アジア地域においては、上尾事業所で生産していた一部のハイエンド品をマレーシアに移管し、プロダクトミックスの改善を行いました。少しずつではありますがこの生産シフトの効果は出ており、さらなる収益改善を目指します。

三井金属アクト株式会社における自動車部品事業については、アジア生産シフトの遅れ等が減益要因となりましたが、その遅れは足元ではだいぶ解消してきています。一方、新規拠点戦略の1つであるメキシコでは、2013年10月から計画どおり稼働を開始しました。

## Q3. 本年4月1日付で実施した組織改編について改めてご説明願います。

従来の取り組みを加重・加速するため、大胆な経営資源の集中を図ることができ、体制への見直しを行いました。

大きな特徴は、事業部門を「機能材料」「金属」「三井金属アクト」の3つに再編したこと。です。

機能材料事業本部は、従来の電池材料、触媒、

向上に加え、ダイカスト事業を分社化し、子会社としての自立自走を目指す方針を打ち出すといった経営効率改善への動きを進めました。

次に個別の事業の状況についてご説明したいと思います。

電池材料事業では、ハイブリッド車向けの水素吸蔵合金<sup>②</sup>の販売が、2012年度に引き続き堅調に推移しました。車載向けリチウムイオン二次電池の正極材料であるマンガン酸リチウム（LMO）は、電気自動車の本格普及を待つ状況がしばらく続きそうですが、着実に販売量を伸ばしています。

排ガス浄化触媒事業は成長戦略に基づく海外展開を積極的に行っております。まず、インドネシア拠点が2013年4月から本格稼働を開始し、現地二輪車市場の成長を受けて好スタートを切り、ベトナム拠点も2014年2月に稼働を開始しています。さらに2015年度には二輪車向けのインドの第2製造拠点や四輪車向けの米国拠点が操業を開始する予定です。

リサイクル事業では原料に占める酸化亜鉛原料の比率を向上させるという意識を今まで以上に高め、従来の鉱石を主体とする製錬から、「リサイクル製錬へのシフト」をテーマに掲げました。当社が全国に有する製錬設備のネットワークを最大限に活かし、リサイクル原料の集荷量や

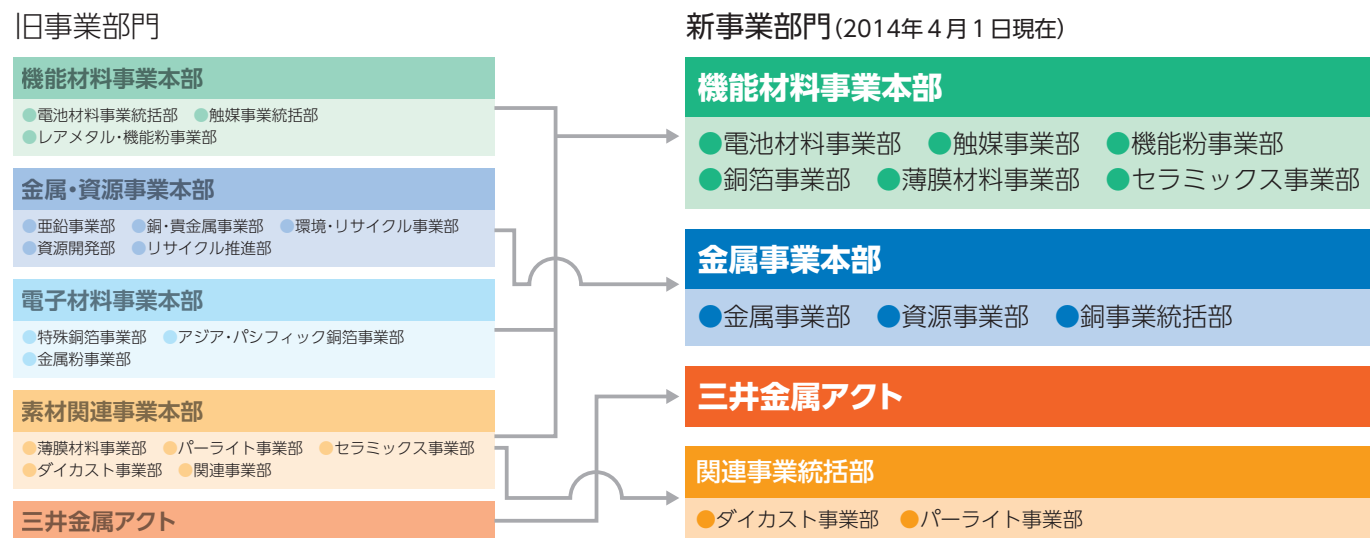
機能粉に、銅箔、薄膜材料およびセラミックスを加え素材事業を全て集約しました。事業本部の規模を拡大し、「粉体」「回路材」「素形材」といった当社が強みを持っている領域で技術のシナジー効果を発揮させようということが大きな狙いです。さらに、総合研究所の研究開発機能を事業本部に移し、研究開発機能を持った組織として、事業と研究開発の一体化により、新たな成長の芽を創出するスピードをより一層上げていきます。

金属事業本部は、「金属」「資源」「銅事業」の3事業体制に再編しました。金属事業部は製錬事業の一本化に伴いリサイクルをより意識した製錬に構造転換し、資源事業部は鉱山における収益性と投資採算の向上をさらに意識していきます。また、銅事業については、銅事業統括部として、カセロネス銅鉱山の開発の中心となっているパンパシフィック・カッパー株式会社について、共同出資しているJX日鉱日石金属株式会社とともにしっかり運営してまいります。

三井金属アクト株式会社は、自動車部品事業により即した体制づくりを推し進めていき、グローバルで競争力のある部品メーカーを目指します。

機能材料事業本部 薄膜材料事業部で取り扱うターゲット材の詳細については、「CLOSE UP」でご紹介しております。

## 組織改編の要旨



PT.Mitsui Kinzoku Catalysts Jakarta (排ガス浄化触媒のインドネシア拠点)



チリのカセロネス銅鉱山遠景





#### Q4. 2014年度の見通しについてお聞かせください。

当社の強みを発揮できる事業を牽引役とし、収益の拡大を図ります。

2014年度については、大きな利益を見込んでいたカセロネス銅鉱山の本格稼働が遅れており、その影響は避けられないでしょう。しかしながら、その要因を除けば現時点では概ね中計水準の利益は確保できると考えています。

具体的に申し上げますと、2014年度の業績は売上高4470億円、営業利益240億円、経常利益250億円、当期純利益150億円と、排ガス浄化触媒、リサイクル、自動車部品を中心にさらなる伸びが期待できる事業に注力することにより、一過性の外部要因を除いた2013年度の実力ベースの経常利益を上回る増益を見込んでおります。

#### Q5. 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

成長戦略に掲げた打ち手を着実に実行いたします。今後の三井金属にぜひ期待してください。

これまで申しあげましたとおり、現在13中計で掲げた将来の成長に向けた打ち手を着実に実行しています。今後は、さらに次期中計と

この観点にとらわれず、先を見据えた当社の可能性を追求してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への長期的なご支援をお願い申し上げます。

#### 用語解説

**カセロネス銅鉱山の減損処理**  
カセロネスプロジェクトから得られる将来キャッシュ・フローの現在価値が、同プロジェクト資産の帳簿価格を下回るようになったことから、損失を計上する会計処理。

#### 水素吸蔵合金

金属の中には、水素を取り込む性質を持つもの（マグネシウム、チタンなど）が複数あるが、この性質を最適化した合金。当社の水素吸蔵合金は、主にハイブリッド車の心臓部であるニッケル水素電池の負極材料として使われている。

#### キャリア

極薄銅箔の保護材のこと。1〜5μmの極薄銅箔はハンドリングが難しいため、保護材をつけて出荷される。お客様側で保護材と極薄銅箔を引き剥がし、極薄銅箔を加工する。

#### CLOSE UP

## 様々な電子機器に使用される薄膜ターゲット材

### 液晶パネルのキーマテリアル

美しい映像を映し出す大画面の液晶テレビやスマートフォン、タブレット端末。これらに使用される液晶パネルは、2枚のガラスで液晶を挟んだ構造となっており、ガラス面の内側に形成されている薄い金属の膜（薄膜）に電気が流れることで、ガラス面に映像が映し出されます。

「薄膜」とは名前のとおり、マイクロメートルレベルの非常に薄い膜です。この薄膜を形成するために、「スパッタリング」という技法が用いられ、その材料として、当社が製造しているITO（インジウムと錫の酸化物）やIGZO（インジウム、ガリウム、亜鉛の酸化物）などのターゲット材が使用されています。ITOターゲット材は、薄型テレビ、スマートフォン、タブレット端末や車載用ディスプレイなどの透明導電膜材料として用いられています。IGZOターゲット材は、省エネと高精度化を実現する酸化物質半導体材料として、最近ではスマートフォンやタブレット端末向けとして注目されています。

### お客様のニーズを取り込み、さらなるビジネスの拡大を図る

当社、薄膜材料事業部の主力製品であるITOターゲット材、IGZOターゲット材は世界でトップクラスのシェアを占めています。現在の主流である平板ターゲット材に加え、次世代の主流となる可能性のある円筒形ターゲット材の量産にも力をいれています。円筒形ターゲット材は、平板ターゲット材と比べると、お客様の製造工程での使用効率が大きく向上するという利点があり、最近、頻繁にお問い合わせを頂戴するようになりました。

当社は日本、中国、台湾、韓国という主要な液晶市場に製造や販売拠点を設置しておりますが、今後は特に中国での需要拡大が見込まれています。この需要に対応すべく上海に加えて、2013年に深圳にも販売拠点を設置し、迅速にお客様のニーズにお応えできる体制を整えています。

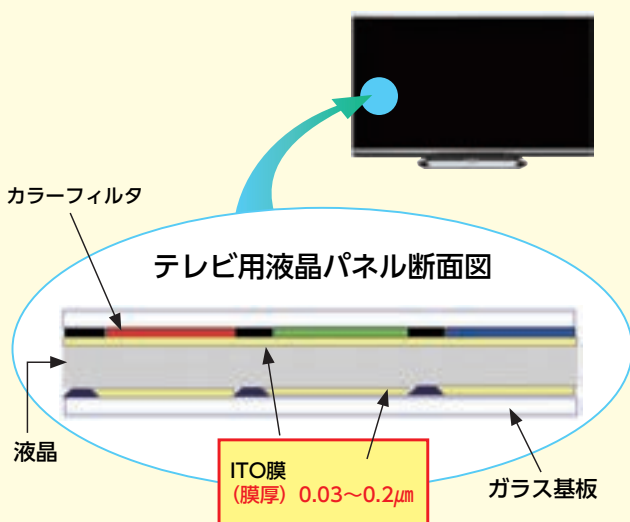


ITOターゲット材、IGZOターゲット材

### 原料の回収、再資源化を行い、循環型社会の構築に貢献

当社では原料となるインジウムを広島県にある竹原製錬所で精製しておりますが、使用済みインジウムの回収、リサイクルも行っており、原料から製品まで生産を貫かれています。これは、資源循環型社会への貢献であるとともに、当社にとって大きな強みでもあります。

この強みを活かしながら当社は、各種用途に応じた様々なターゲット材を提供し、世界のエレクトロニクス産業に貢献してまいります。



ITO膜の厚みが0.2μmの場合は、髪の毛の厚み（0.1mm）の1/500の薄さとなる。

#### 用語解説

**マイクロメートル**  
1マイクロメートル(μm)=0.001ミリメートル



2014年

インドにおける排ガス浄化触媒の製造・販売  
 子会社「Mitsui Kinzoku Components  
 India Private Limited」の第2の製造拠点を

2月  
**インド二輪車市場の拡大を捉え  
 現地触媒事業の第2製造拠点を設立**

インドにおける排ガス浄化触媒の製造・販売  
 子会社「Mitsui Kinzoku Components  
 India Private Limited」の第2の製造拠点を

2013年

11月  
**親子で読めるわかりやすさを意識した  
 「環境報告書2013」を発行**

皆様にご覧いただけます。  
 三井金属 CSR 検索  
<http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/csr/>



12月  
**神通川流域におけるイタイイタイ病・  
 カドミウム被害問題が全面解決**

イタイイタイ病訴訟控訴審判決から41年を経て、  
 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会(被団  
 協)との協議により、本件被害問題の全面解決に  
 至りました。当社は一度とこのような問題を発生  
 させないため、被団協の皆様との「緊張感ある  
 信頼関係」をもって、公害防止対策のさらなる  
 充実を図ってまいります。

ダイカスト事業を分社化し、子会社として  
 2014年7月1日から「三井金属ダイカスト  
 株式会社」として再スタートすることを決定し  
 ました。新体制の下、さらなる経営効率の向上と  
 意思決定の迅速化を図るとともに、お客様の  
 ニーズに迅速・的確に対応してまいります。

3月  
**ダイカスト事業の分社化を決定  
 経営効率の向上と  
 意思決定の迅速化を図る**

ダイカスト事業を分社化し、子会社として  
 2014年7月1日から「三井金属ダイカスト  
 株式会社」として再スタートすることを決定し  
 ました。新体制の下、さらなる経営効率の向上と  
 意思決定の迅速化を図るとともに、お客様の  
 ニーズに迅速・的確に対応してまいります。



2月  
**100年の歴史を振り返り、  
 飛躍を誓う  
 操業記念の会を大牟田市で開催**

同国グジャラート州に設立しました。操業  
 開始は2015年4月を予定しています。世界  
 第2位の二輪車市場であるインドで、今後大幅に  
 増加が見込まれる触媒需要に対応しビジネスの  
 拡大を図ります。

大牟田亜鉛製錬所  
 1914年(大正3年)1月に福岡県大牟田市において操業  
 開始。1982年(昭和57年)子会社化し、その4年後には  
 亜鉛地金の生産から撤退。現在、三池製錬株式会社と  
 なって金属リサイクル事業を中心として操業している。

グジャラート州  
 インド北西部に位置し、同国において工業生産が最も盛  
 んな州として知られる。日印両国政府の大型インフラ整備  
 事業や、日本貿易振興機構による日系企業専用工業団地  
 の開発も進んでいる。

今後のIRスケジュール

2014年7月	8月 上旬 2015年3月期 第1四半期決算発表 アニニューレポ 2014公開	9月	10月 下旬 環境報告書2014公開	11月 上旬 2015年3月期 第2四半期決算発表	12月 下旬 第90期上半期報告書発送
---------	--	----	--------------------------	------------------------------------	---------------------------

決算のポイント

POINT 1

機能材料、電子材料の各セグメントで減収となったものの、金属・資源、  
 素材関連、自動車機器の各セグメントでは増収となり、売上高は前期比  
 238億円(5.7%)の増収。

POINT 2

損益面では、極薄銅箔や薄膜材料等での増販や各セグメントにおける  
 コスト削減効果、円安効果やそれに伴うたな卸資産の在庫影響による  
 要因等により、営業利益は前期比91億円(55.5%)の増益。経常利益は  
 チリのカセロネス銅鉱山の減損損失等により前期比25億円(15.7%)の  
 減益。さらに事業構造改善費用等の特別損失、税金費用等を計上した結果、  
 当期純利益は前期比62億円(63.0%)の減益。

POINT 3

第90期については、売上高4470億円、営業利益240億円、経常利益  
 250億円、当期純利益は150億円を見込み、配当は4円を予定。

※第90期の業績見込につきましては、2014年5月8日現在において入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

売上高  
 4410億円  
 (前期比5.7%増)

営業利益  
 257億円  
 (前期比55.5%増)

経常利益  
 136億円  
 (前期比15.7%減)

当期純利益  
 36億円  
 (前期比63.0%減)

セグメント別業績の概況

機能材料 9.8%	売上高 480億円 (前期比15.2%減)	経常利益 56億円 (前期比31.4%減)	環境対応車向けのマンガン酸リチウムや水素吸蔵合金の販売は堅調だったものの、原料相場の影響を受け電池材料の売上高は減少。二輪車向け排ガス浄化触媒も省貴金属化により売上高は減少。経常利益は減益。
金属・資源 31.7%	売上高 1554億円 (前期比8.7%増)	経常利益 47億円 (前期比287.0%増)	亜鉛の需要は堅調に推移し、LME(ロンドン金属取引所)価格は前期に比べて若干の下落となったものの、円安基調に推移したことから売上高は増加。経常利益も増益。
電子材料 13.4%	売上高 655億円 (前期比7.9%減)	経常利益 34億円 (前期比31.9%増)	極薄銅箔の需要は堅調に推移したものの、その他の製品は需要低調。経常利益は極薄銅箔の増販と製品構成の改善等もあり増益。
素材関連 26.8%	売上高 1314億円 (前期比5.8%増)	経常利益 110億円 (前期比247.4%増)	薄膜材料のITOはインジウム価格の急騰を受け販売価格は上昇し、液晶テレビ向け市場の好調、モバイル機器向けの需要堅調などから販売量は増加。その他製品も概ね堅調に推移。経常利益は増益。
自動車機器 18.3%	売上高 900億円 (前期比1.3%増)	経常利益 39億円 (前期比36.0%減)	国内市場での消費税率引き上げ前の駆け込み需要、中国市場の日本車販売復調や北米市場好調等の影響があったものの、アジアシフトに伴う一過性のコスト上昇等により経常利益は減益。

※各セグメントの売上高および経常利益はセグメント間の内部売上高または振替高を含んでいます。  
 ※グラフはセグメント別の売上高構成比を表しています。

## ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。

2013  
日興アイ・アール  
総合ランキング

当社サイトは日興アイ・アール株式会社の「2013年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査 総合ランキング 優秀企業ホームページ」に選ばれました。



## 株主・投資家情報



「個人投資家の皆さまへ」では、事業内容や専門用語の解説、株式事務手続きなどの情報をまとめてご紹介しています。



三井金属

検索

<http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/>

## 会社概要 (2014年 3月 31日現在)

商号 三井金属鉱業株式会社

(Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd.)

[呼称：三井金属/MITSUI KINZOKU]

本店 東京都品川区大崎一丁目11番1号

設立 1950年5月1日

資本金 42,129百万円

従業員数 連結 10,802名

単体 1,802名

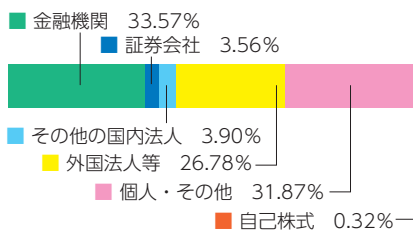
## 株式の状況 (2014年 3月 31日現在)

発行可能株式総数 1,944,000,000株

発行済株式総数 572,966,166株

株主数 48,015名

### 所有者別株式分布状況



### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	43,955	7.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	40,241	7.04
全国共済農業協同組合連合会	23,291	4.07
CBNY-ORBIS SICAV	20,924	3.66
三井金属社員持株会	11,937	2.09
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	11,852	2.07
野村信託銀行株式会社(投信口)	6,930	1.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	6,786	1.18
BBH BOSTON CUSTODIAN FOR GMO INTL INTRINSIC VALUE FUND	6,296	1.10
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	6,003	1.05

※持株比率は自己株式(1,832,185株)を控除して計算しております。

※記載持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。

## 株主メモ

定時株主総会の議決権の基準日 3月31日  
 期末配当の基準日 3月31日  
 中間配当の基準日 9月30日  
 定時株主総会 6月下旬

株主名簿管理人・特別口座管理機関  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先  
 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 TEL：0120-782-031 (フリーダイヤル)

### 公告の方法

電子公告とする。  
[\(http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/\)](http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/)  
 ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。

### 〈株式事務のお取扱い〉

- 未払配当金の支払のお申出先  
左記三井住友信託銀行にお申し出ください。
- 住所変更、単元未満株式買取等のお申出先  
①証券会社の口座へ株式をお預けになられている株主様は、お取引のある証券会社にお申し出ください。  
②証券会社の口座へ株式をお預けになられていない(特別口座に記録されている)株主様は、左記三井住友信託銀行にお申し出ください。

三井金属鉱業株式会社

総務部 〒141-8584 東京都品川区大崎一丁目11番1号  
 TEL:03-5437-8240



環境に配慮した FSC® 認証紙と植物油インキを使用しています。